

平成26年度うつくしま総合型スポーツクラブユニオン

第6回常任理事会

開催場所：郡山市富久山公民館富久山分室

開催日時：平成27年2月20日（金） 13：30～16：00

参加者数：6名

- 1 開会
- 2 うつくしま総合型スポーツクラブユニオン会長あいさつ 中島道男氏
- 3 うつくしま広域スポーツセンタープロジェクトマネジャーあいさつ 鈴木慎治
- 4 議長選出
- 5 議事録署名人の任命
- 6 報告事項  
地区ユニオンからの意見集約の結果について（専門部会設置・法人格取得）
- 7 協議事項
  - (1) 平成27年度うつくしま総合型スポーツクラブユニオン総会について
    - (ア) 報告 報告第1号 平成26年度ユニオン加入クラブについて
    - (イ) 議事 議案第1号 平成26年度事業報告（案）について  
議案第2号 平成26年度収支決算報告（案）について  
議案第3号 平成27年度事業計画（案）について  
議案第4号 平成27年度収支予算（案）について  
議案第5号 規約の一部改正について
  - (2) うつくしま総合型スポーツクラブユニオン機能強化事業について
    - (ア) 法人化について
    - (イ) 専門部会について
  - (3) Re-startプロジェクト報告書について
  - (4) その他
- 8 議長退任
- 9 情報交換
- 10 その他
- 11 諸連絡
- 12 閉会

## 【会議の概要】

今回の常任理事会では平成27年度うつくしま総合型スポーツクラブユニオン総会に向けての事業計画や決算・予算、規約の改正等について話し合われました。また、県ユニオンの法人化と専門部会の設置に向けて各地区ユニオンから出された意見をもとに、常任理事会として県ユニオンの法人化後の具体的なイメージや専門部会の位置づけ、機能について意見が出されました。



県ユニオンの法人化や専門部会の設置等について話し合われました。  
県ユニオンとしての今後の取り組みについて話し合われました。

## 平成26年度相馬地区ユニオン自主事業

## スケート教室 with 安藤美姫

日 時：平成27年2月14日(土) 13:00~16:00  
場 所：宮城県石巻市 プレナミヤギアイススケートセンター  
参加者数：32名

## 【概要】

NPO法人はらまちクラブ、うつくしま総合型スポーツクラブ相馬地区ユニオンの主催により、講師に元女子フィギュアスケート安藤美姫さん、同じく曾根美樹さんをお招きし、「スケート教室 with 安藤美姫」が石巻市プレナミヤギアイススケートセンターにおいて開催されました。

スケート教室には県内の小学生32名が参加し、講師2名の指導のもと氷上でのバランスのとり方や転び方、歩行の仕方や前後の滑り方等を約2時間にわたり指導していただきました。ほとんどの参加者がスケートを体験するのは初めてということもあり、リンクに立つことさえおぼつかない様子でしたが徐々にコツをつかみ教室の最後には後ろ向きで滑れるようになった参加者も見られました。スケート教室終了後には交流会が行われ、遊夢チアリーダーの先導のもとに参加者が安藤さんや曾根さんにエールを送り、お礼の言葉を述べました。安藤さんからは努力することをあきらめないことの大切さ、曾根さんからはもっと楽しくスケートをしたいと参加者に向けてお話をいただきました。

今回のスケート教室開催にあたっては昨年5月に「第8回全国スポーツクラブ会議」が南相馬市で開催された際に、新潟県「わくわくたいないスポーツクラブ」からいただいた支援金を本事業の運営の一部に充てさせていただきましたことを併せてご報告させていただきます。



## 基点クラブ支援事業会津・南会津合同クラブ視察研修

日 時：平成27年2月28日(土)～3月1日(日)

視 察 先：山形県 大蔵村総合型地域スポーツクラブ・NPO 法人尾花沢スポーツクラブ

参加者数：14名

### 【研修の概要】

会津・南会津地区の合同クラブ視察研修会が行われました。今回のクラブ視察先の大蔵村スポーツクラブは、3m以上の積雪から、いかに早く地面の土を掘り出せるかを競う「地面だし競争」が有名なクラブです。また、尾花沢スポーツクラブは、日本体育協会が発行しているSportsJapan（2014,11-12）に「会員数増加の秘訣」として取り上げられ、様々な工夫をされているクラブです。

今回の研修では、豪雪地帯であることや人口規模が会津、南会津地区の環境と類似している点が多いことから、この2クラブを視察させていただきました。

大蔵村スポーツクラブは平成21年に設立されましたが、平成13年～18年に生涯スポーツ推進モデル地区として5年間補助金を受けて設立の準備を進めてきました。その間、学校の統合もあり、使用されなくなった学校を生涯学習センターとして活用し、クラブの事務所も置かれています。運営委員が34名おり、非常に活発に活動されています。地面だし競争も毎年小学校の運動会のために、先生と子ども達が校庭の雪かきをしていることから「これをイベントにできないか」と思いついたそうです。説明された八鍬氏は「ばかなことを真剣にやるからおもしろい」と話されました。また、H21～H25の5年間はスポーツ振興くじ助成を受託していましたが、今年度より助成金無しで活動しています。くじ助成を受けている間にクラブの指導者に資格を取得してもらい、謝金を抑えることにより、助成が無くなった今年度も同様のプログラムを開催しているそうです。さらに、ホームページや情報発信をする運営委員などクラブをサポートする体制がすばらしいクラブです。



説明をいただいた八鍬さんと研修を受ける参加者の皆さん



会長の菅野氏を中心に記念撮影



名物となったイベント  
です。約3mの雪を掘る  
そうです。

尾花沢スポーツクラブは平成16年に行政主導で設立されました。当初の会員は170人程度。市の組織編成に伴い、平成19年にクラブが市体育館の指定管理を受託したそうです。今回説明していただいたクラブマネジャーの佐久間氏は平成22年の法人格取得の際にクラブに関わったそうです。そこで、会員の増加を目指す様々な取り組みを行ったそうです。その一つが協賛店との提携です。クラブ会員へのメリットを作りだしたそうです。実際にホテルや店舗に「尾花沢スポーツクラブの方は会員証を提示してください」とあるように割引制度があります。その他にも体育館内にあるトレーニングジムの優待券を配布するなど様々な知恵を出し合っています。現在は550~600名程度にまで増えてきましたが、農業が盛んな地域であり、スポーツの必要性を感じなかったり夏場は運動する時間が確保できなかったりした状況を踏まえた上でのプログラムも実施されてきたそうです。また、まちなかウォーキングやスノーフェスタなど様々なイベントを行っています。佐久間氏は「イベントはほとんどが赤字。多くの方々にクラブを認知してもらい、興味をもってもらうために行っている。」と話されました。こちらのクラブも運営委員の協力体制が構築され、会員獲得やクラブ事業のサポート体制がすばらしいです。

参加された方々は、クラブの概要の説明を受けながら熱心にメモをとったり、会費やプログラムの運営方法など様々な質問をしたりして、自クラブの役立つ情報を収集できました。また、バスの中でも視察クラブの情報を話題としたり各クラブの情報交換をしたりできた有意義な研修会となりました。

地域の環境は似ていても運営方法まで同じクラブはありませんが、今回の視察を通して、こちらのクラブも地域資源の活用、地域の人材の活用、運営委員のサポート体制がしっかりされているとともに、知恵を出し合い、それを形に結びつける熱意を感じました。



クラブマネジャーの佐久間さん [中央]



真剣に説明を受けた参加者の皆さん



施設内見学の様子



佐久間さんを中心に記念撮影

## パワーアップジャパン・エコノミー症候群対策事業 南相馬市鹿島地区にてGボール教室開催

平成27年2月24日（火）、東京都と一般社団法人日本アスリート会議の主催によるエコノミー症候群対策事業が南相馬市の鹿島区にある友伸グラウンド応急仮設住宅で開催されました。相馬ユニオンのかしま元気スポーツクラブが主管団体となって行われた事業でした。

昨年度も南相馬市で行われましたが、南相馬市の鹿島地区には津波被害による仮設住宅がまだまだ存在し、日頃、運動から遠ざかっている高齢者がたくさんいるということで、今回も鹿島地区での仮設住宅で開催されました。

教室はGボールというゴムボールを使った軽運動で、椅子に座りながらでも出来る運動なので体験した方々からは「いつでもどこでも気軽に出来るからいいですね。」という声がたくさん聞かれました。Gボールを使用した運動は、肩こり、腰痛予防、運動不足解消につながる運動であり幅広い年齢層で誰でもいつでも手軽に出来る内容でした。

参加者の方々は、会場に入ってきたときには遠慮がちで表情も硬く、言葉数も少なかったのですが、講師のNPO法人NSCA ジャパンの事務局長である阿部良二先生の指導はわかりやすく、無理のない運動量で冗談も交えながらアットホームな雰囲気の中で行われたので、笑い声も絶えない中での教室となり、教室終了時には満面の笑顔で帰って行く姿がとても印象的でした。終わってから、参加者からは「またやってみたい」「今度はいつやるの」などととても好評を博しました。



## クラブアドバイザーレポート（1・2・3月号）

うつくしま広域スポーツセンター  
クラブアドバイザー 板垣 晶行

今回のクラブアドバイザーレポートは今年度の最終号ですので、アフターtotoに向けたクラブ自立の考え方について取り上げたいと思います。

## Ⅰ、総合型クラブの基本理念は「地域づくり」

今年度は「総合型地域スポーツクラブ育成プラン2013」とクラブ自立・自律のために「取り組むべき7つの項目とそのチェックシート」について紹介しました。

育成プラン2013の基本理念である「スポーツを核とした豊かな地域コミュニティの創造」を実現するには、皆さんのクラブが地域住民の自発的で主体的な生涯スポーツの推進と元気で明るいまちづくりに取り組む雰囲気づくりが大切になります。

総合型クラブは地域づくりであるが故多様な地域事業と共にあるべきですが、面白いものでこのクラブ事業の実態は財務分析を実施することでその概要が見えてきます。

## Ⅱ、クラブに求められる「事業のしくみと多様な財源」

総合型クラブの理念は地域づくりであります。経営の観点では「自主事業」ですから、クラブ事業の基盤には収益性が必要となります。国内における総合型クラブの創設期では、その育成方針により多額の財政支援がありましたが、それはクラブ事業の自立に向けた基盤強化策で一時的なカンフル剤であります。

クラブ事業の継続には持続可能な「事業のしくみと多様な財源」の確保が重要となり、そこにはクラブ事業のビジョンや戦略づくりが必要です。このことは特に toto 助成金の活用率が高い県内クラブに共通して欠けている要因と感じます。

これはこれまでの国内民間企業でも指摘されている課題で、日本の新技術の開発力は大変優れているのですが、残念ながらこの新技術を事業化する能力や財源の確保が問題となっており、最近話題の3Dプリンターなどがその事例です。

## Ⅲ、クラブ自立のヒントは「事業別・部門別の収支計算書」

クラブ事業の継続には多様な財源をバランス良く確保することが重要ですが、そのポイントはまず自分のクラブを客観的に知ることです。クラブ事業の実態を把握するには財務分析が有効で、これには「事業別・部門別の収支計算書」を作成することです。

具体的には事業の種類を「自主事業、受託事業、補助事業」などに分類し、さらにそれぞれの事業毎に「必要とされる部門別」に収支計算書を作成することで、事業別・部門別の損益が常に把握でき、簡単にクラブ事業の財務分析が可能となります。

総合型クラブは地域づくりであるが故多様な地域事業と共にあるべきですが、面白いものでこのクラブ事業の実態は財務分析を実施することでその概要が見えてきます。

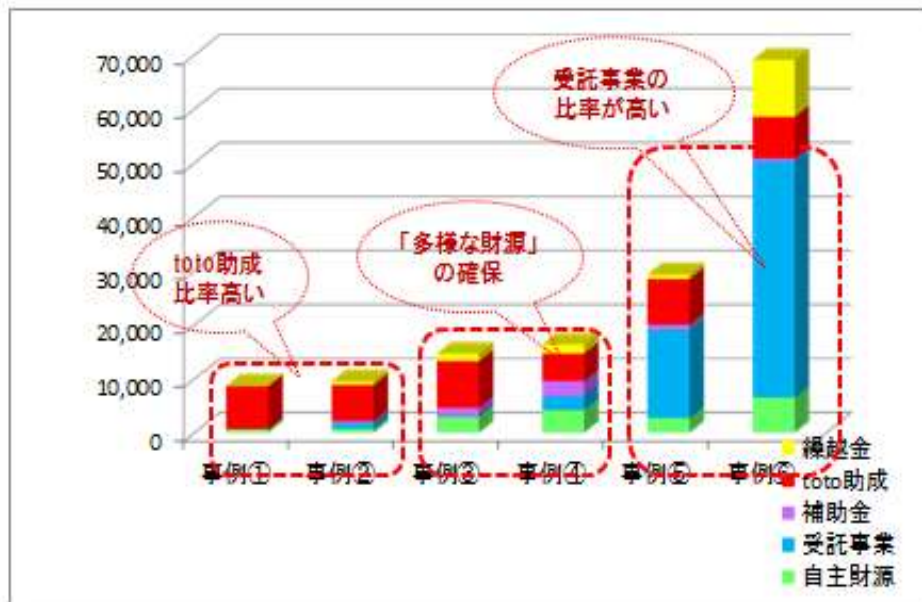
#### IV、県内クラブ「事業収入の規模別」財務分析の特徴

県内クラブの事業概要を把握する目的で、事業収入の規模別に主だったクラブの財務分析をまとめてみました。

H25年度の決算データを参考に事業収入の規模を3つに分類しその特徴を表現したのですが、収入の規模は①1,000万円未満のクラブ、②1,000万円以上2,000万円未満のクラブ、③2,000万円以上のクラブに分類しました。

その特徴は「①1,000万円未満のクラブ」では、何と言っても toto の助成金比率が80%～90%と圧倒的に高い傾向が見られます。「②1,000万円以上2,000万円未満のクラブ」では、多様な財源の確保に努力している傾向が見え始めています。「③2,000万円以上のクラブ」になると、多様な財源の確保も見られますが何と言っても受託事業の比率が60%～70%と圧倒的に高いクラブが登場します。

### 県内クラブの「事業収入」別特徴について





## V、財務分析の目的は「アフターtotoの自立対策」

財務分析の目的はあくまでもアフターtotoに向けた自立対策で、クラブの理念は地域づくりですから「収益性と公益性」のバランスが重要となります。

クラブ自立の基本は何と言っても自主財源の確保ですので、原価志向の会費設定や受益者負担の徹底、コミュニティビジネスの実践などで自主財源比率（収益性）を高める努力は常に必要です。また、今後県内クラブに求められる自立対策は、行政と住民の中間支援団体として地域貢献する各種受託事業（公益性）の獲得と思われます。

このように財務分析はクラブに必要な個別の事業毎にその達成度を客観的に把握する指標となり、クラブ自立の成長戦略策定に向けた具体的な数値目標となりますので是非活用して頂くことを提案します。

